

# 令和2年度 公募「第26回 花を描こう絵画展」

## 審査員総評及び上位入賞作品選評

審査員 山瀬 晋吾氏 (彫刻家、白山市松任美術協会顧問、同市芸術文化アドバイザー)  
前 一彦氏 (洋画家、前白山市美川美術協会会長)  
土田佳代子氏 (洋画家、白山市松任美術協会代表理事)

### ❖ 総 評 [山瀬晋吾氏]

今回の審査はこの度改装されたばかりのふるさと館で行われました。作品点数が多い関係から、最初は床の上に置かれた状態で審査しますが、これまでの板敷に代わり、全面フラットになった畳敷きの上になりました。畳特有の感触は足裏にやさしく、休憩ごとに眺めるふるさと館自慢の和式庭園の緑は、折からの雨に洗われて美しく、不思議に疲れを感じない楽しい審査になりました。賞を決める段階になると作品は立てかけて審査しますが、当然のことに作品の良さがより強く伝わってきます。

今回は毎年みられる写実に徹した作品に比べて、自分なりの感性や夢を前面に押し出したいわゆる構想画的な絵に惹かれました。その訳は絵画特有の色と形のとらえ方が个性的で、見る人に共感させる自由な発想と様々な夢の世界へいざなう力があったからです。

### ❖ 選 評 [各審査員]

#### § 最優秀賞 §

小学生低学年の部



「巨大松ぼっくりと丸まるたぬき」  
金沢大学附属小学校3年  
服部 千隼

丸まっているたぬきを題材に選んだところに非凡な感性を感じます。顔や表情がかかれていなくとも、寄り添っている姿からふだんの習性や生活がうかがえてほほえましくおもいました。

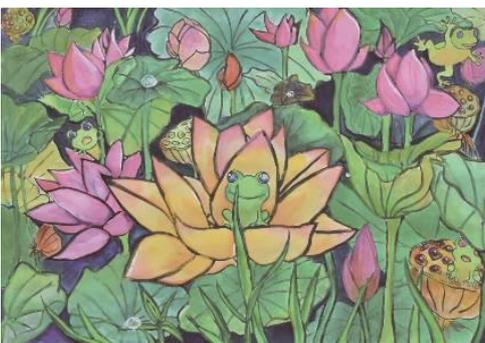
身体の部分をクレヨンで何度も色を重ねたところは味わいがあり、毛流れもしっかりとかけています。

地面のところは、もうひと頑張りして土の表面のでこぼこなどをかきいれてはどうでしょうか。葉っぱのちぎれたところや松ぼっくりのむつかしい傘の模様はていねいに根気よく描けています。

自然は色の宝庫です。雨の日はしめって葉っぱも暗い色になりますし、晴れた日が続くと乾いて白っぽくなります。

身のまわりのものやことがらを、素直な眼と感性でみつめ、これからもいい作品を作ってください。 [土田佳代子審査員]

小学生高学年の部



「もういいかい？まーだだよ！」  
金沢大学附属小学校5年  
深江 文

シャープで切れ味の良い作品です。

まず絵の中心に大きな花があり、そのまわりに円を描くように大小の花が取り巻くようにおかれています。その間をうめるようにたくさんの丸くひらいた葉や細長い葉、またちから強く真つすぐ伸びる茎がみえます。ハスの特徴をととてもよく理解し、構成しています。

背景の暗い色もよく画面をひきしめています。

花のりんかく線の力強さには、版画に通ずる思いきりの良さが感じられました。

飛び跳ねたり座ったりしているカエルのユーモラスな動きを追っていると、物語の世界に誘われていきそうです。

絵の魅力とはなんでしょう。

見ているひとに与える勇気や希望。

いろいろありますね。これからもすてきな作品をたくさん描いていってください。 [土田佳代子審査員]

## 中学生の部



「しなやかに咲く」  
中能登町立中能登中学校2年  
飯田 結莉

庭の片隅でひっそり咲いている花スズラン。この可憐な花に目をとめた飯田さんのやさしい姿勢と、小さな花に潜む生命力をしなやかと捉えた感性が見事です。

釣り鐘形の花をクローズアップさせ、その形を一つ一つ丁寧にとらえ、花びらの柔らかさや立体感をよく表現しています。脇役の花たちは控えめな明かりをともした提灯のように幻想的に浮かんでいて、かろやかな音楽のリズムが感じられます。彩色は白と緑系でまとめ上げ、中央に突き出た葉の暗緑色が花の白さを際立たせ、画面全体を引き締めています。

花を単に写生することにとどまらず、愛らしい花とともに遊び楽しんでいる作者の心の風景までが伝わってくる傑作です。

[山瀬晋吾審査員]

## § テーマ賞 §

### 花・風景画賞



「ひかりの森」  
内灘町立内灘中学校3年  
齋藤 愛唯

樹木が茂った神社境内の森厳な雰囲気を感じさせる作品です。

森の奥へ続く石段と鳥居を画面の中央に据え、深い樹木の梢の間から斜めに差し込む幾筋かの陽光と木漏れ日による木々の深いかげりや反射の光、その暗さや明るさの中の色まで見逃さないことで質感まで感じさせ、確かな奥行や神秘的な気配を描き出しています。四角い鳥居、縦長の台形の石段、垂直の木々が縦の動きを、斜めの光と波のような蒼い陰影が変化を生み出しています。森の光と陰を粘り強く写生し追求した重厚な作品になっています。

これからもこの度に経験した探究心を持ち続けてください。

[前 一彦審査員]

### 動物・家族の画賞



「牛舎の牛」  
白山市立東明小学校2年  
安藤 蒼馬

学校の近くの見なれた牛なのでしょうね。こちらへ顔を向けて友だちを見るようなつぶらな瞳の大きい牛と隣の横向きのやや小さい牛が、緑がかった灰色で画面いっぱいに描かれているのが目を引きまします。牛の形や大きさを明暗のちがいで注意深く描き、たしかな線でかたどっています。

背景の牛舎の中の様子をあたたかいピンク系の色で明るくシンプルに表し、親しみをもった目と心がうかがわれます。

じっくりと観察して描いたすっきりとして力強い作品です。

この貴重な経験を大切に心やさしい人になってください。

[前 一彦審査員]

応募総数 769点 (小学生低学年170点、同高学年408点、中学生191点)

応募校数 71校 (小学校53校、中学校18校)